

古事記に学ぶ その 16

景行天皇の時代 その業績やいかに？

<1> 景行天皇の后と80人の御子

垂仁天皇と氷羽州比売命の間に生まれた第二子、大帯日子淤斯呂和氣命（おおたらしひこおしろわけのみこと）は、纏向（まきむく）に日代（ひしろ）の宮を造って、景行天皇と名乗って天下を治めた。

日代の宮があった場所は、JR 桜井線巻向駅の東の山裾で、現在は「来福山荘」となっている。

天皇は、吉備の臣などの祖先である●若建吉備津比古（わかたけきびつひこ）の娘である針間の●**伊那毘能大郎女**（いなびのおおいらつめ）を妻として、●櫛角別王（くしつぬわけのみこ）・●大碓命（おおすのみこと）・●小碓命（をうすのみこと）またの名を●倭男具那命（やまとをぐなのみこと）・●倭根子命（やまとねこのみこと）・●神櫛王（かみくしのみこ）の五柱の御子を生んだ。（*註 1）

また、●八尺入日子命（やかさのいりひこのみこと）の娘●**八坂之入日売命**（やさかのいりひめのみこと）を妻として、●若帯日子命（わかたらしひこのみこと）・●五百木之入日子命（いおきのいりひこのみこと）・●押別命（おしわけのみこと）・●五百木之入日売命（いおきのいりひめのみこと）を生んだ。さらに**次の后**は、●豊戸別王（とよとわけのみこ）・●沼代郎女（ぬのしろのいらつめ）を生み、**次の后**は、●沼名木郎女（ぬなきのいらつめ）・●香余里比売命（かごよりひめのみこと）・●若木之入日子王（わかきのいりひこのきみ）・●吉備之兄日子王（きびのえひこのきみ）・●高木比売命（たかぎひめのみこと）・●弟比売命（おとひめのみこと）を生んだ。

次の后は日向（ひむか）の●**美波迦斯毘売**（みはかしびめ）で、●豊國別王（とよくにわけのみこ）を生み、最初の後である伊那毘能大郎女の妹●**伊那毘能若郎女**（いなびのわかいらつめ）を妻として●眞若王（まわのみこ）・●日子人大兄王（ひこひとのおおえのみこ）を生んだ。

また、●倭建命（やまとたけるのみこと）の曾孫である●須売伊呂大中日子王（すめいろおおなかつひこのみこ）の娘●**訶具漏比売**（かぐろひめ）を妻として、●大枝王（おおえのみこ）を生んだ。

景行天皇の御子は合計80柱になったが、記録に残る者だけで 21 柱だった。

その中で、若帯日子命（わかたらしひこのみこと）・倭建命（やまとたけるのみこと）・五百木之入日子命（いおきのいりひこのみこと）の三柱が、天皇の地位を継ぐべき「日嗣の御子（ひつぎのみこ）」という名を与えられた。（*註 2）

この他の御子たちは、国造・和氣・稻城・県主等の肩書を与えて、各地に配置した。

選ばれた三柱の中から、のちに若帯日子命が、次の第十三代成務（せいむ）天皇となり國を治めた。

*小碓命（をうすのみこと）＝またの名を倭男具那命（やまとをぐなのみこと）

東国・西国に出向いて、朝廷に服しない者を成敗した。

*櫛角別王（くしつぬわけのみこ）＝茨田（まむた：のちの河内の國茨田郡）の下連などの祖先。

*大碓命（おおすのみこと）＝守の君、大田の君、島田の君の祖先。

*神櫛王（かみくしのみこ）＝木の國の酒部（さかべ）の阿比古（我孫子）・宇陀の酒部の祖先。

*豊國別王（とよくにわけのみこ）＝日向（ひむか）の国造の祖先。

<2> 御子作りの結末

景行天皇は、三野の国造の祖先である神大根王（かむおおねのみこ）の娘である兄比売（えひめ）・

弟比売(おとひめ)の姉妹が美人であることを聞きつけて、召し寄せようと考えて大碓命を使いに出した。ところが、大碓命は天皇の命令には従わず自分が仲良くなってしまい、代わりに別の女二人を見つけて天皇に差し上げた。天皇は、求めていた姉妹とは違うことを感じ取り、一向に男女の関係は進展しなかった。

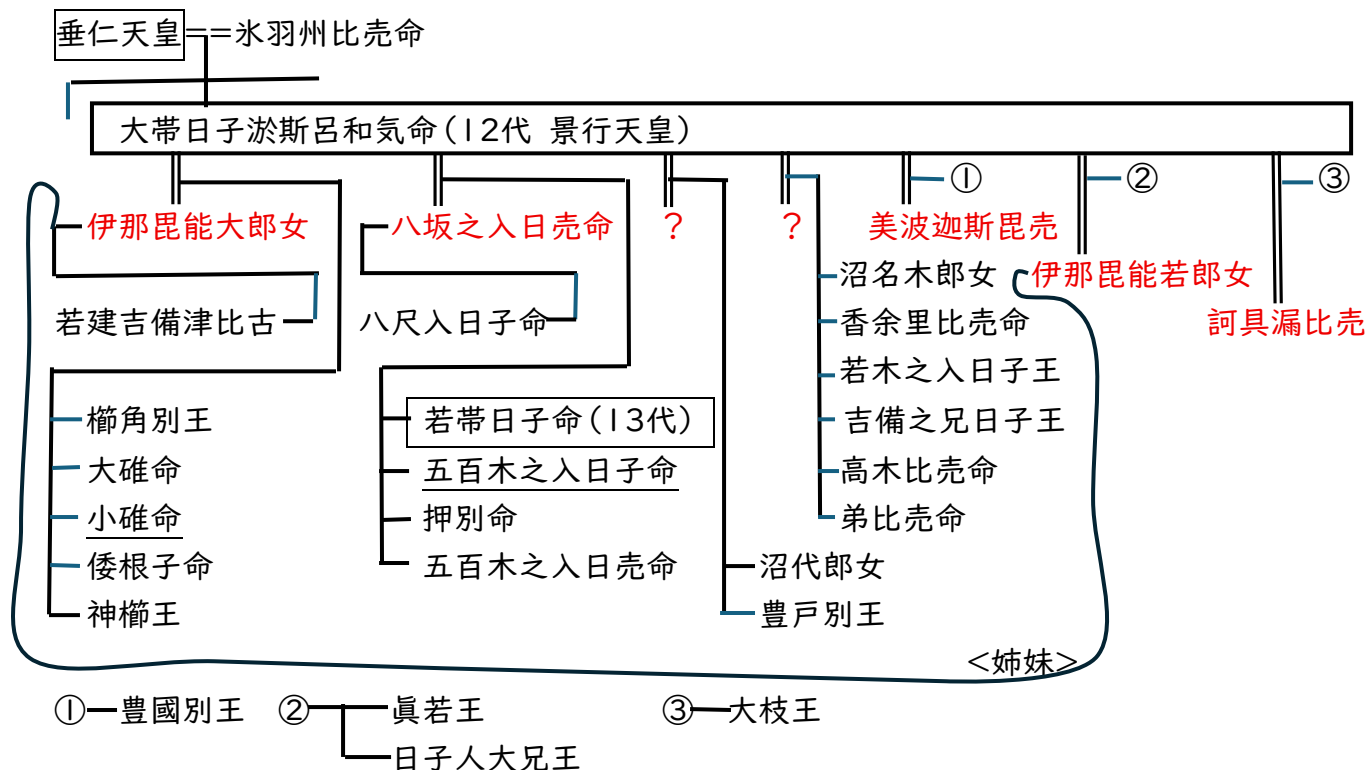
結果として、大碓命は、手に入れた兄比売を妻として●押黒之兄日子王(おしくろのえひこのみこ)を生んだ。押黒之兄日子王は三野の宇泥須の和気の祖先となった。

また、弟比売を妻として●押黒之弟日子王(おしくろのおとひこのみこ)を生んだ。押黒之弟日子王は、牟宜都(むげつ)の君などの祖先になった。

<3> 御子作り以外の業績

景行天皇の御代では、朝廷の田圃を耕す部民(田部)を定め、東の淡の水門(みなと:のちの安房)を定めた。また、食事のことに奉仕する膳(かしわで)の大伴部(おおともべ)を定め、上納の穀物を収める役所として「大和の屯家(みやけ)を定めた。また、坂手の池を造り、堤が決壊しないように、周りに竹を植えさせた。

<4> 景行天皇を中心とした系図 をまとめてみた



*註 1: 小碓命 (をうすのみこと)

古事記本文には「またの名を倭男具那命(やまのおぐなのみこと)」と付記されている。

他の資料を探ると「のちの名が倭建命(やまとたけるのみこと)」とも示されている。

古事記本文では、(先読みして見たら)次章で始まる東征・西征の旅の中で経緯が記されていることがわかった。

*註 2: 倭建命 (やまとたけるのみこと)

「倭建命(やまとたけるのみこと)の曾孫である須売伊呂大中日子王(すめいろおおなかつひ

このみこ)の娘**訶具漏比売**(かぐろひめ)を妻として、大枝王(おおえのみこ)を生んだ。」と書かれているが、その直後の文章で「倭建命(やまとたけるのみこと)は日嗣の御子三人の一人である」と書かれている。倭建命と景行天皇・**訶具漏比売**との世代が不整合な気がする。後の章で明らかになるのかもしれないが、この時点では違和感があることを付記しておく。

以上